

## 令和3年度卒業式 式辞

やわらかな風の温かみに春本番の訪れを感じる今日の佳き日、令和3年度卒業証書・学位授与式を挙行できますことは、本学にとって大きな喜びであります。

誠に遺憾ながら本年も昨年と同様、新型コロナウイルス感染を防止する観点から、ご来賓をお招きすることができず、またご父兄の皆様にも限定的にご参加頂くこととなりました。このような形で卒業式を挙行致します事を、改めてお詫び申し上げますとともにご理解を賜りますようお願い申し上げます。

\*

\*

さて本日、現代社会学部150名人間生活学部103名合計253名の卒業生に「学士」の学位を授与致しました。これから皆さんは「大学卒業者」として、社会に飛び立つこととなります。思えば小学校入学以来、中学校、高等学校そして大学と学校というところで16年間もの間、学ばれたこととなります。今日をもって学校から巣立ち、いよいよ社会という場で皆さんの活躍が求められます。皆さんの中には、ようやく好きではない勉強から解放され、好きなように仕事ができると思っている人もいるかもしれません。ただここで重要なことは、学校からの卒業はあっても「学び」からの卒業はない、ということです。

\*

\*

「人生100年時代」という言葉も今では当たり前のように使われるようになりました。皆さんはこうした世界最高の「超高齢社会」の中で社会人として活躍していかなければなりません。情報技術も一層進展することでしょう。そこで生きぬくためには、常に新しい知識や考え方を知り、自分の知識のストックを更新しバージョンアップしていく必要があります。10年も20年も前に学んだことがいつまでも通用する時代ではないのです。つまりこれからの人生で大切なことは、「学び続ける」「継続して学ぶ」ということなのです。

ここで47歳で医師国家試験に合格し、医師となった木村勤さんという方を紹介しましょう。木村さんはもともと小学校の先生だったのですが、38歳の時「医師になる」というかつて描いていた自分の夢に挑戦することを決意しました。大学医学部はどこも難関であるとはいえ、20歳台までには入学し6年間をかけて学業を修め、医師国家試験に合格するのが一般的です。難関の医学部受験に加え、医師国家試験もその合格のためには細かい知識、最新の情報を覚えなければならず20代の学生でも大変な努力を要する試験です。これらの試験を乗り越えるべく、木村さんは語呂合わせなど工夫を重ねて3年間の大学入試の勉強後、国立大学医学部に合格、さらに6年後見事医師国家試験にも合格し、夢を実現したのであります。これまでは30台も半ばを過ぎれば、新しく学ぶことはあまりせずむしろ学ぶことから縁遠い生活を送るのが一般的でした。しかし最近では、木村さんのように自分の夢のため、新たなキャリアをつくるため、などの目標を掲げより積極的に学びを継続する人が増えてきています。こうした挑戦によって人生がより豊かになることは言うまでもありません。

\*

\*

ここで卒業式でもお話した「人生万事、塞翁が馬」という言葉をもう一度思い出してください。塞翁は一見不幸に見えることでも幸せの可能性を見出し、逆に幸せと思えることでも不幸の元になり得る事を見抜いていました。これは人生の真理といえ、目先の幸不幸に左右されず自分の考えをもって生きぬくことの大切さを伝える故事成語といえます。ただここで注意したいのは、この格言が「塞翁が馬」となっていて「馬」という言葉が活かされていることです。実は古代の中国では家畜の「馬」は貴重な財産なのであり、それを失うことや得ることの意義を比喩的に伝えているともいえるのです。つまり「塞翁が馬」は「塞翁の財産」といってもいいのです。そしてこの「財産」を経済的な意味だけでなく、知的な財産も含んだものと考えればこの言葉の持つ意義を、一層今日的に捉え直す事ができます。

皆さんが本学で4年間かけて学んだことは、間違いなく皆さんの「財産」です。ただこの財産も活用次第でさらに一層大きな財産になることを知っておかなければなりません。それは大学で学んだことを基礎として、その時々で必要なことをどんどん学び直し、つけ加えていくことに他なりません。また逆にこの財産をいつまでも抱え込んで活用しなかったり正しく利用しなかったりすれば、「不幸」を呼び寄せかねないのです。大学で学んだことに固執したり、満足してしまったりする状況は決して良いことには結びつかないのです。このように考えると「塞翁が馬」は知的な財産の活用にも当てはまる故事とも言えるでしょう。

\*

\*

皆さんが過ごしたここ数年のコロナ禍での学生生活は本当に不自由なものであったと思います。なかなか思うような学修や活動ができなかったことでしょうか。実際に、残念なことに学業半ばで方向転換せざるを得なかった同級生もいます。さらにしばらくはこのような状態が続くかもしれません。しかしこの時代に学生時代を過ごした皆さんは、これからも多くの困難を力強く乗り越えていってくれるものと信じています。

皆さんの入学式で、私がメジャーリーグに移籍した二刀流の大谷翔平選手や将棋の藤井聡太さんの話をしたのを覚えていますか。大谷選手は数年前の故障を克服し昨年2021年にはアメリカン・リーグ MVP(最優秀選手)に輝きました。一方藤井聡太九段は19歳6か月で最年少5冠を達成しました。彼らは素晴らしい活躍を続けていますが、皆さんはこの4年間で何を成し遂げましたか。そう、皆さんはコロナ禍の逆境の中で、立派に大学を卒業しました。大谷選手も藤井九段も大学には(現在のところ)いっておらず、卒業はしていません。そして大学を卒業した皆さんは、大学で学んだことを基礎にさらに学び続け、成長していってくれるはずですよ。

本学で得た知識や技能という「知的財産」を、さらに学びを続けることによって大きく育て、この激動の時代を生き抜いてください。皆さんがどのような状況に陥ろうとも、逞しく自らの道を切り開き、自分らしい人生を歩み続けることを期待して、卒業式の式辞といたします。